

子供宝也

No.27

平成 24 年 10 月 26 日

尼崎市立武庫東小学校 校長 大楠正治

メモをとる：デジタルとアナログ

学習していくうえで、「メモをとること」がずいぶん重要視されています。話の要点を迅速、的確に把握する力が求められているのです。考えて見れば、社会に出たとき、こういった力は本当に必要なものとなります。

5年1組は理科の授業でした。「流れる水のはたらき」についての学習です。曲がって流れる川の映像がパソコンからテレビに流れ、内側と外側では水の流れるスピードやものを運ぶ力の強さの違いなどが解説されていきます。子どもたちに目をやると一生懸命メモをとっています。先生も黒板に先生なりに書いているのですが、子どもたちも子どもたちなりに大切なキーワードや数値などを落とさずに書いています。最後に「今日の学習でわかったことを書きなさい。」と先生が言うと、それこそ鉛筆が流れるように動いていきます。

インターネットで検索し、プリントアウトすれば事は足りるかもしれませんが。しかし、映像を見るだけではなく、メモをとったり、あるいは、事典で調べたり、情報を本当に自分のものにしていくためには、こういった言わばアナログ的な学習活動が非常に重要だと思います。なんでも便利な機器にたよってしまうことに慣れてしまうことに危機感を感じているのは私だけなのでしょうか？時間はかかるかもしれないけれど地道な自らの手で学ぶ事を大切にしたいと思いました。

ズシン！！

6年1組の授業を見たあと、たまたま6年生の国語の指導書を読んでいますと1ページ目に「創造」という詩があり、その詩について羽曾部 忠さんという方がコメントを載せておられました。